

日本の宝を守り伝える 伝統芸能文化を未来へ

日本の伝統芸能文化・雅楽と深い関わりがある高槻は、雅楽を中心とした日本の伝統芸能文化の振興に取り組むため、令和7年8月に全国で初めて雅楽協会と包括連携協定を締結しました。今号では、雅楽の魅力や雅楽を支えてきた鶴殿のヨシ原の歴史、それらを未来に受け継ぐ活動を紹介します。

問合 文化スポーツ振興課／TEL674-7649 ID 165780



雅楽関連画像協力：大阪楽所、日本雅楽会

高槻が支え続ける雅楽



INTERVIEW

雅楽協会
代表理事 小野真龍さん

プロフィール
幼少より舞人、楽人の道へ。現在は小野妹子の八男を開基とする願泉寺住職、天王寺楽所雅亮会理事長。関西大学客員教授も務め、大学などで雅楽を講義する他、著書も多数

懐の深い音楽

雅楽は、器楽演奏を中心とする「管絃(かんげん)」、舞を主体とする「舞楽(ぶがく)」、歌謡を中心とする「歌物(うたいもの)」の三つのジャンルで構成されています。



管絃

管絃は舞を伴わず、三管(管楽器)、両絃(絃楽器)、三鼓(打楽器)によって合奏されます。指揮者はおらず、テンポは厳密に刻まれるのではなく、奏者同士が間合いを感じながら演奏します。

不協和音や音程の揺らぎさえも美と捉える懐の深さも雅楽の魅力の一つです。

美しさを楽しむ舞

舞楽は、演奏と舞が一体となったもので、陰陽思想に基づく「左方(陽)」と「右方(陰)」の2流派があります。左方は中国由来で赤系の衣装と優雅な舞、右方は朝鮮半島由来で緑系の衣装と打楽器のリズムに型を合わせる舞が特徴。宮中組織の左右体制に調和した「番舞(つがいまい)」として演じられます。



どちらの舞も、ストーリー性より型の美しさを純粋に楽しむ舞台芸術として知られています。

受け継がれ世界へ

平安時代、後の三方楽所となる地域では代々雅楽を受け継ぐ楽家(がっけ)が誕生します。その後、雅楽は一度衰退し、断絶の危機に陥ります。しかし、三方楽所が協力して雅楽を守り、豊臣秀吉も保護に動いたことで、江戸時代からは安定して伝承が続きました。



歌物

明治政府は、三方楽所の楽人を中心に、皇室付きの楽団を設立。これが現在の宮内庁式部職樂部へと受け継がれました。

その後、雅楽は昭和30年に国の重要無形文化財に指定。平成21年には、ユネスコ無形文化遺産に登録され、世界にその価値が認められました。

心搖さぶる神秘的な音色

雅楽では、10種類以上の楽器が使われ、管楽器・絃楽器・打楽器に3分類されます。波のようなリズムと、千年以上も変わらない神秘的で、自然を象徴する音色が、聴く人の心を揺さぶります。演奏の要となるのが笙(しょう)、筆篥(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)の3種類の管楽器。一般的に「天・地・空」の小宇宙を表現しているともいわれ、それぞれの楽器の個性と一体感を織り成す演奏が雅楽の魅力といえます。

笙

【天から降り注ぐ声】

椀状の頭(かしら)の上に17本の竹管を組んだ管楽器。複数の竹管の穴を押さえ、同時に鳴らす。邦管楽器の中で唯一、和音を奏で、柔らかで神秘的な音色が楽曲の奥行きを作ります。



筆篥

【大地に立つ人の声】

短い縦笛。音程を曲線的に変化させる塩梅(えんばい)という奏法が特徴。力強く豊かな音量、温かみのある音色が人の声に近く、豊かな表情を生み出します。



龍笛

【空を翔ける龍の鳴き声】

広い音域を持つ横笛。ほとんどの雅楽曲は、龍笛の独奏から始まる。筆篥の奏でる主旋律を、細かい音の動きと広い音域で装飾します。



鶴殿がつなぐ雅楽と高槻

鶴殿のヨシは筆篥の蘆舌(吹き口)として、宮内庁に納められてきました。古来の音色を現代に伝える唯一無二のヨシが、雅楽と高槻とをつないできたのです。



吹き口

熱したこてで、ヨシを圧して平たくし、両面を削って蘆舌に加工



鶴殿のヨシは繊維の密度が高く、音色に独特の響きをもたらす

伝統芸能文化を未来へ

鶴殿のヨシ原があり、古くから多くの楽人が訪れた高槻で、令和6年、宮内庁式部職樂部による雅楽の特別公演を開催。大きな反響がありました。



締結した協定には、ヨシ原の保全に加え、市と雅楽協会が協力して、最も古く権威のある雅楽を未来に継承するという理念があります。雅楽を核とした魅力あるまちづくりに向け取り組みます。



守り継がれる鶴殿のヨシ原

日本の伝統芸能文化・雅楽にとって重要な鶴殿のヨシは、高槻が誇る地域資源です。先人たちの思いを受け継ぎ、ヨシ原焼きや調査研究などを通じ、多くの人たちがその豊かな生態系を守り続けています。

豊かな
生態

広大な自然
育まれる良質なヨシ



ヨシ原の概略

- 約75ha (甲子園球場約19個分)
- 淀川沿い約2.5km
- 最大幅約400m
- 大阪みどりの百選
- 関西自然に親しむ風景100選

ヨシの生態

- 約5mと背が高く、太い
- 陸域ヨシで、水域ヨシと比べ弾力性に富む

守る
組織

コンソーシアム
連携して未来につなぐ



市は雅楽協会などと「雅楽の楽器 筆篥用ヨシ保全コンソーシアム」を設立。今後、雅楽団体や地元、国と協力して、除草作業など、ヨシ原の保全に取り組みます。

メンバー：雅楽協会、鶴殿のヨシ原保存会、上牧実行組合、高槻市オブザーバー：文化庁、国土交通省淀川河川事務所

守る
人々

守り人たちの活動
ヨシ原に寄せる思い



約100年続いてきたヨシ原焼き。鶴殿の環境を守るために続けていきたいです

鶴殿のヨシ原保存会
会長 西村守さん

地元に住む人たちの「ヨシ原を守りたい」という気持ち大切に、毎年ヨシ原焼きを実施し続けている。



国、自治体、民間の協働でヨシの永続的な再生・保存を願っています



雅楽を後世へと、令和4年からのべ2,500人余りの協力でつる草抜きを実施し、筆篥用ヨシの再生に尽力。



江戸時代の鶴殿の風景。当時の観光ガイド「淀川両岸一覧」に掲載

調査に訪れた際、75歳だった牧野博士

歴史
にも
登場

鶴殿を愛した偉人たち

- 平安時代、紀貫之が土佐日記に鶴殿を宿泊地として記述
- 昭和7年、谷崎潤一郎が鶴殿を舞台にした小説「蘆刈（あしかり）」を発表
- 昭和12年、牧野富太郎博士が鶴殿の生態の調査に訪問

鶴殿ヨシ原研究所
所長 小山弘道さん

1975年から生態系の調査を開始。市民と共に観察、展示、ヨシの活用などに取り組む。



高槻で雅楽の魅力を体験しよう

雅楽協会との共催で、雅楽を見て、聴いて、知って、楽しむイベント「高槻雅楽フェスティバル（雅楽饗宴・特別展示）」を芸術文化劇場で開催します。雅楽の公演と展示で、雅楽の魅力が体験できる絶好の機会です。

雅楽饗宴

聴いて楽しむ

読者特別枠 申込順各20人

かつて楽人たちは、鶴殿のヨシを求めて高槻の地を訪れました。その高槻に現代の楽人が集い、舞台に立ちます。公演では、海外公演の実績がある団体など、個性と魅力ある八つの雅楽団体が一堂に会します。伝統の響きを新たな息吹とともに奏で、深遠な雅楽の世界をお届けします。

日時 1/31(土) 14:00～16:00 (第1部)、16:45～18:45 (第2部)

場所 太陽ファルマテックホール 料金 各部1,500円

申込 1/6(火)から HP 窓口で

問合 芸術文化劇場/TEL671-9999



第1部



博雅会（大阪）

大阪・関西万博にて「8時間耐久雅楽」を企画、演奏



雅楽バサラ（関東）

伝統的な演奏にとらわれない奏法「婆娑羅」が語源



平安雅楽会（京都）

恩賜財団平安義会を母体に設立。京都で最も古い民間雅楽団体



Naoyuki MANABE
GAGAKU Ensemble (東京)

令和6年に「創造する伝統賞」
(日本文化藝術財団)を受賞

第2部



雅楽道友会（東京）

元宮内庁の楽師を中心に、民間への雅楽の普及などを目的に発足



天王寺楽所雅亮会（大阪）

重要無形民俗文化財である四天王寺の「聖靈会の舞楽」を伝承



花舞鳥歌風遊月響雅楽団（関東）

日本古来の「四季折々の風情」をテーマに古典曲を奏で舞う



大阪樂所（大阪）

宮中に伝わる雅楽の継承などを目的に結成。国内外で演奏を行う

特別展示

知って深める

高槻と雅楽の深いつながりや、古代から受け継がれてきた雅楽の歩みなどをパネル展示で紹介。公演当日の31日には、雅楽で用いられる楽器や面の実物を展示します。雅楽の奥深さを感じることができますので、ぜひご来場ください。

日時 1/27(火)～31(土)
場所 太陽ファルマテックホール ロビー周辺 料金 無料

